

## 本別町地域公共交通会議 会議要旨

○開催日時 平成26年6月26日(木) 午後3時30分～午後4時

○会場 本別町役場3階会議室

- <出席者>
- ・帯広運輸支局首席運輸企画専門官 頼本 英一
  - ・帯広運輸支局運輸企画専門官 鈴木まなみ
  - ・十勝総合振興局地域振興部地域政策課主査 長谷 一臣
  - ・十勝地区バス協会事務局 山本 康友
  - ・十勝地区ハイヤー協会常務理事 塚本 俊二
  - ・十勝バス株式会社旅客事業本部長 長沢 敏彦
  - ・本別ハイヤー有限会社専務取締役 白木 智康
  - ・毎日交通株式会社代表取締役 千葉 元逸
  - ・有限会社北海陸運総務部長 大和田 鉄也
  - ・本別町自治会連合会副会長 三枝 金作
  - ・本別町 高橋町長、砂原副町長、能祖建設水道課長、  
川本企画振興課長、吉井健康管理センター事務長  
佐々木教育次長

(事務局) 倉崎補佐、小川主査、多田主任

### ○会議事項

1 開 会

2 挨拶 (会長)

3 議 題

(1) 太陽の丘循環バス停留所の追加 (新設) について [資料1]

(2) 平成27年度地域内フィーダー系統確保維持計画 (案) について [資料2]

4 その他

○会議の経過 別紙のとおり

○会議結果 (1) 内容原案のとおり了承。

(2) 内容原案のとおり了承。

## 別紙

### 【会議の経過】

#### 1. 開会 川本企画振興課長

#### 2. 会長挨拶

本日の会議にご多用のところお集りいただき誠にありがとうございます。

前回会議は、2月5日にお集りいただき、「町有バス」と「太陽の丘循環バス」運行にかかる、新規路線の追加や変更等の協議をいただきました。おかげさまをもちまして、各バスとも、4月より順調に運行しています。

また、国土交通省の地域公共交通確保維持改善事業がH23年4月よりスタートし、本町は平成24年度事業より「太陽の丘循環バス」も対象となり、現在、3年目の事業推進中であります。

本日は、主に太陽の丘循環バスの運行確保と更なる利用性の向上を図るべく、平成27年度補助申請に必要な「地域内フィーダー系統確保維持計画」について提案させていただきます。よろしく協議を願います。

#### 3. 議題

##### (1) 太陽の丘循環バス停留所の追加（新設）について [資料1]

＜吉井事務長より説明＞

太陽の丘循環バス停留所の追加（新設）につきまして、今回、北地区交流センター前と錦町会館前の運行区間になりますが、北8丁目の公営住宅の前に、停留所の設置の強いご要望があり、経路内の北8丁目の公営住宅の前に1か所停留所を新設するものであります。

時刻表では、停留所番号8番「錦町会館前」と番号7番「北地区交流センター前」の間に、7-1番として、「北8丁目公住前」を加えております。

なお、運行ダイヤについては、現在の運行経路上であることから、新設停留所の時刻のみ追加で、他の停留所の発着時間の変更はございません。

今後とも、運行委託事業者とも連携を図りながら、サービスの向上に努めてまいりたいと考えております。

##### (2) 平成26年度地域内フィーダー系統確保維持計画（案）について [資料2]

＜地域内フィーダー系統確保維持計画（案）説明の前に、参考資料の太陽の丘循環バス運行見直し経過と利用実績について事務局より説明＞

太陽の丘循環バスのこれまでの運行見直しの経過と利用実績についてであります。資料1の運行経路図にありますように、当町では、平成25年9月から、現在の6系統の市町村有償運送登録により運行を行っております。

これまでの運行見直し等の経過であります。資料⑧番に記載してありますが、平成25年9月にまち中に人を集めるべく運行ルートとし、南北各便すべてを逆回りにし、大回り便を新設、直行便を減便し近道便を増便するなど、大幅な運行体系の見直しを行っております。

以降、町民から、運行時間に関する事、また運行形態（まわり方）に関する種々ご意見を賜り、その改善策とし、本年4月よりダイヤ改正と直行便を1便増便したところであります。

利用実績については、平成24年度で年間16,998人、平成25年度は13,330人の利用者数であり、前年比約20%程度の減少となっており、各月の状況については、グラフに記載のとおりとなっています。利用者数の減少については、主に国保病院患者数の減少や市街地南地区に内科医院の開業（H24秋）の影響と考えているところであります。

こういった状況も踏まえ、当計画を立てさせていただくわけではありますが、ご承知のとおり、「フィーダー系統」とは、バスの停留所、鉄道駅、港や空港において、地域間交通ネットワークと接続する系統のことをいい、「太陽の丘循環バス」も十勝バス幹線に接続する地域フィーダー系統でということで、本事業の対象要件となっております。先ほどご確認いただきました運行ルートにより、平成27年度事業を進めさせていただくものでございます。

#### <平成27年度地域内フィーダー系統確保維持計画（案）について事務局より説明>

本計画につきましては、地域協議会等の協議を経て策定され、本制度活用のための要件となるものであり、今回提案する計画案については、平成27年度（事業年度：平成26年10月1日～平成27年9月30日）以降の運行にかかる補助申請に必要な計画となるものであり、当町では、今回で4年次目となります。

計画における事業の定量的な目標として、昨年度計画までは、①利用者数、②バスの認知度、③運行費用の3点について、具体の目標値を示していましたが、②の認知度については、概ね目標値が達成されていること、③運行費用面については、燃料費高騰により、目標項目としてふさわしくないことから、今回計画においては、①利用者数のみ、具体の目標値設定とし、前年度（見込み）比較で同水準の目標値としています。

なお、現状における3か年の補助申請見込み額は

- ・平成27年度 5,164千円
- ・平成28年度 5,164千円
- ・平成29年度 5,185千円 となっている。

#### <以降、計画（案）に沿って説明>

4. 質疑応答 なし

5. その他 なし

6. 閉会